

うたごよみ

曾於文藝

「題字」

末吉文化協会会員
瀬戸口 淳民氏

俳句

末吉俳句会

空に坐す一枝一花の朴の花

古藤 まゆ美

竹の子の半値の半値日暮れけり

泊 康

漣の広がる朝未草

瀬戸内 紀子

千草俳句会

瀬音のせ風すべりゆく山法師

今村 久子

花あふち揺るる淡色高かりし

福嶋 武子

風薫る異国の人と橋の上

児玉 タエ子

大隅俳句会

抜きん出し野蒜の花に風遊ぶ

河南 三保

無骨なる車前草なぜか懐かし

岩重 みどり

夕御飯鯖の味噌煮に生姜足し

穎娃 晴美

短歌

末吉短歌会

ハグしたら飴玉ひとつ貰へると

知りし幼のハート抱きしむ

大森 澄子

初夏の風に吹かれて旅立てる

たんぽぽの綿の軽さ切なさ

長倉 佳津子

高速路のゲートのアーム上がるとき

今まさに我は出走の馬

宝蔵 弘二

大隅短歌会

話したり歌もうたえる人形に

ひとり居の吾に心が和む

入来 レイ子

きみに書く文に辞書は引かないよ

心が寄り道しそうになるから

鮫島 由美子

新緑の峠抜け来て春の陽の

耀きやまぬ海原に遣う

広川 ミドリ

財部短歌会

少子化で五月の風は音も無く

折紙鯉が団地の窓に

永岡 冴子

二度三度聞きかへす事ためらひて

わかったふりして受話器をおろす

川俣 若

農をやめふるさとすてし我が身に

都会の孫農が好きと言ゆ

橋口 貞男

赤き実を小鳥に忽ち食み尽くされ

若葉を芽吹く銚もちの木

瀬戸口 芳子

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

高価か苗 やつと活着たや

こんだ害虫

田代 勝泉

良か苗を 待ちちよった如つ

虫しや食ろつ

古川 一幹

買った苗あ 子育しの如つ

手を加れつ

森山 厚香

苗ん代金や 取らじけ枯れた

無精者が柚子

鈴木 一泉

大隅薩摩狂句会

雨蛙も 怖気が付こそな

凄ぜ大雨

山田 竜生

大雨んな 蛙も驚つ

避難しつ

福元 多喜子

異状気象 蛙も溺るい

多け大雨

小倉 りんりん

是ら厄介 予報が当つ

大雨めなつ

津留 群志